

水遊びと安全



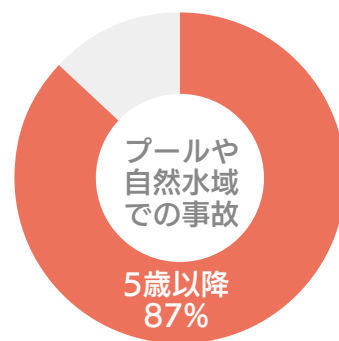
1. 疫学

令和元年人口動態統計によると、
小児の「不慮の事故」における死因のうち、
溺水は3番目に多く、5歳以上では最も多い¹⁾。
溺水で亡くなった53例のうち、
プールや自然水域での事故は23例で87%が5歳以降であった²⁾。
水難事故全体で見ると中学生以下は全体の1/4を占め、
男性の方が女性の2倍多いことが知られている³⁾。

3番目に多く
5歳以上では
最も多い

溺水

「不慮の事故」
における死因



2. 病態

溺水による死亡はほとんどの場合が
気道や肺胞が液体で満たされることによる低酸素血症である。
また、外傷による溺水、低体温による心肺停止の発生も
稀ではあるが存在しており、
救出後の対応に個別の配慮が必要となる。
溺水の発生から心停止までは数分程度とされており、
2.2ml/kgの誤嚥で重大な酸素化不良を引き起こすとの動物実験での結果がある⁴⁾。

男性の方が
女性の2倍多い

女性 男性

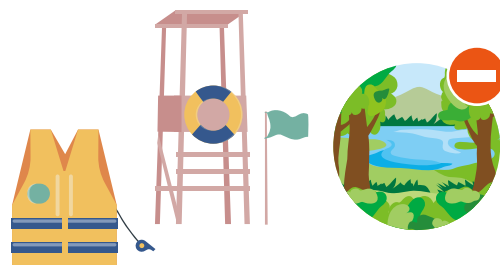
水難事故

3. 応急処置

BLS に従い意識の確認→必要に応じて CPR、保温、可能であれば酸素投与。

4. 予防・啓発

- 自然水域ではライフジャケットの着用を徹底する。
- 事故発生率の高い地形の情報提供や立ち入りの封鎖をする。
- 水難救助に対する知識(二次被害の予防)の習得をする。
- 専門の監視員が必要である。
- 基本的な水泳技術の習得の重要性を伝える。



参考文献 1)厚生労働省．人口動態統計不慮の事故による死因別にみた年齢別死亡数 Clin Pediatr (Phila). 2009 Jan;48(1):66-71.
2)厚生労働省．人口動態統計不慮の事故による死因別にみた年齢別死亡数
3)公共財団法人河川財団．水難事故 2021.
4) Szpilman D, et al. Cleve Clin J Med. 2018; 85(7): 529-535.